

ガラテヤ人への手紙 1回

「あいさつ」

ガラ 1：1～5

1. はじめに

(1) ガラテヤ人への手紙の位置づけ

- ①特定の教会や個人ではなく、ガラテヤ地方の複数の教会に宛てられたもの。
- ②2節に、「ガラテヤの諸教会」と書かれている。
- ③パウロは、第1次伝道旅行でこの地方に複数の教会を設立した（地図）。
 - *ピシデヤのアンテオケ、イコニオム、ルステラ、デルベの諸教会
- ④パウロが設立した諸教会を、ユダヤ主義者と呼ばれる人々が訪問した。
 - *彼らは、元パリサイ派で、律法を守ることに固執していた。
 - *エルサレム教会は、ユダヤ主義者の立場に反対していた。
 - *ユダヤ主義者よりも、律法主義者という名称の方がよい。
- ⑤パウロは、律法主義者の教えを論駁するために、この書簡を書いた。
- ⑥アンテオケで紀元48年頃に執筆したと思われる。
 - *タイミングは、エルサレム会議の前である。

(2) ガラテヤ人への手紙の特徴

- ①ローマ人への手紙の短縮版である。
- ②ローマ人への手紙は、ガラテヤ人への手紙の拡大版である。
- ③宗教改革の土台となった書簡である。
- ④キリスト者の「マグナ・カルタ」（自由の大憲章）と言われる。

(3) ガラテヤ人への手紙のアウトライン

- ①個人的弁明：パウロの使徒職（1：1～2：21）
- ②教理的教え：信仰義認（3：1～4：31）
- ③実践的教え：キリスト者の自由（5：1～6：18）

2. メッセージのアウトライン

- (1) 差出人（1節）
- (2) 宛先（2節）
- (3) あいさつ（3節）
- (4) 頌栄（4～5節）

3. 結論

- (1) 使徒職の弁明
- (2) パウロが伝えた福音

ガラテヤ人への手紙のあいさつについて学ぶ。

I. 差出人（1節）

1. 1節

Gal 1:1 人々から出たのではなく、人間を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によって、使徒とされたパウロと、

- (1) ギリシア語では、最初に「パウロ」という名前が出て来る。
 - ①この手紙を書いているのは、誰だろうパウロである。
 - ②あなたがたをキリストに導き、ガラテヤの諸教会を設立したパウロである。
 - ③ヘブル名はサウロ、ラテン名はパウロである。
 - ④異邦人に向けて書いているので、ラテン名を使用している。

- (2) 続いて、「使徒」というタイトルが出て来る。
 - ①ギリシア語では「アポストロス」である。
 - ②このタイトルは、パウロのアイデンティティを証明するためのものである。
 - ③言葉の位置から、このタイトルが強調されていることが分かる。
 - ④ガラテヤの諸教会には、パウロの使徒職を疑う者たちがいた。
 - ⑤パウロは、自分は12使徒とは異なる別の範疇の使徒であると主張する。

- (3) パウロは、誰から使徒に任命されたのか。
 - ①人間がこの任命の源になっている訳ではない。
 - *エルサレム教会の重鎮たちではない。
 - ②人間というチャンネルを通してこの任命が与えられた訳でもない。
 - *アンテオケ教会の長老たちでもない。
 - ③任命者は、イエス・キリストと父なる神である。
 - ④律法主義者との対比は鮮明である。
 - *彼らは、エルサレム教会から派遣されたかのように振る舞った。
 - *実際は、エルサレム教会から認定を受けたわけではなかった。
 - *律法主義者たちは、人からの権威も、神からの権威も受けていなかった。
 - ⑤パウロは、イエス・キリストと父なる神から任命を受けた。
 - *父なる神は、キリストを死者の中からよみがえらせたお方である。
 - *信者の復活は、キリストの死と復活によって保証されている。
 - *キリストの復活は、初穂としての復活である。

- *初穂は、それに続く収穫を保証している(初穂は、ヘブル的イメージ)。
- ⑥死後の復活の希望は、キリスト教と他の宗教を区別する特徴である。

II. 宛先 (2節)

1. 2節

Gal 1:2 私とともにいるすべての兄弟たちから、ガラテヤの諸教会へ。

- (1) 通常パウロは、手紙には2人の名前までしか書かない。
 - ①1テサ1:1では、シルワノとテモテの名が書かれている。
 - ②2テサ1:1でも、同じである。
 - ③パウロは、少人数で移動していた。
 - ④彼らは、パウロのメッセージと宣教の証人たちである。

- (2) ここでは、「私とともにいるすべての兄弟たち」となっている。
 - ①これは、この手紙がアンテオケで執筆されたことの証拠である。

- (3) 宛先は、ガラテヤの諸教会である。
 - ①パウロが、第1次伝道旅行で設立した教会である。
 - *ピシデヤのアンテオケ、イコニオム、ルステラ、デルベ
 - ②これらの教会には、ユダヤ人信者と異邦人信者がいた。
 - ③この手紙は、回覧書簡である。

III. あいさつ (3節)

1. 3節

Gal 1:3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。

- (1) ギリシア語では、「恵みと平安」という言葉がこの文の冒頭に出て来る。
 - ①これは単なる挨拶の言葉ではなく、パウロ神学の本質を突いた言葉である。
 - ②彼の書簡は、常にこの挨拶で始まる。
 - *過ちを矯正するための手紙にも、この挨拶を使っている。
 - ③例外は、2つのテモテへの手紙である。
 - *「恵みとあわれみと平安がありますように」
 - *テモテは、「あわれみ」を必要としていた。

- (2) 「恵み」は、ギリシア語で「カリス」である。

- ①恵みとは、神が一方的な愛に基づいて罪人に示してくださる好意のこと。
- ②さらに、この愛は契約に基づく愛である。
- ③「恵み」は、パウロ神学のキーワードとして、最も重要なものである。
- ④ヨハネも恵みに関して同じ確信を持っていた（ヨハ1：16～17）。

Joh 1:16 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。

Joh 1:17 律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。

(3) 「平安」は、ギリシア語で「エイレイネイ」である。

- ①これは、ヘブル語の「シャローム」以上の意味を持つ言葉である。
- ②ヨハ14：27

Joh 14:27 わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。

③ピリ4：7

Php 4:7 そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

(4) 「恵みと平安」という言葉の順番は、不変である。

- ①恵みは、基本となる祝福であり、平安の原因である。
- ②平安は、恵みがもたらす結果である。
- ③「恵みと平安」は、どこから来るのか。
 - *父なる神から来る。
 - *また、主イエス・キリストから来る。
- ④人生の成功を判定する基準は、「平安」である。

IV. 頌栄 (4～5 節)

1. 4 節

Gal 1:4 キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自分を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころにしたがったのです。

(1) ここまで書いて、パウロは神の御名を称えずにはおれなくなった。

- ①頌栄は、単なる区切りでも、空白を埋めるための言葉でもない。
- ②神学的思索が、パウロを礼拝へと導いたのである。
 - *「礼拝のない神学はなく、神学のない礼拝もない」

(2) 恵みと平安の源である主イエス・キリストをほめ称える理由は何か。

- ①キリストは、私たちの罪のためにご自身を与えてくださった。
 - *信者は、イザヤ 53 章の「受難のしもべ」を思い出したはずである。
 - *キリストの犠牲によって、私たちの罪は赦された。
- ②その目的は、今の悪の時代から私たちを救い出すためである。
 - *信者は、創世 3 : 15 の「女の子孫」を思い出したはずである。
 - *「女の子孫」は、蛇の頭を打ち砕く。
 - *信者は、「今の悪の時代」から救い出された。
 - *信者は、聖霊に導かれて信仰によって歩む。
 - *律法に導かれて歩むのではない。
 - *律法主義者の教えは、「今の悪の時代」の一部である。
- ③キリストの御業は、父なる神の御心に従ったものである。

2. 5 節

Gal 1:5 この神に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

- (1) この神とは、主イエス・キリストと父なる神である。
 - ①パウロは、神の偉大さに打たれている。
- (2) 御子イエスは、父なる神に従順に従うことによって、神の栄光を表わした。
 - ①御子イエスによって救われた信者も、神の栄光を表わすように召された。
 - ②神は、救われた人たちからのみ、栄光をお受けになる。
 - ③律法主義者は、神にではなく、自分に栄光を帰している。
 - ④詩 29 : 1~2

Psa 29:1 力ある者の子らよ。【主】に帰せよ。／栄光と力を【主】に帰せよ。

Psa 29:2 御名の栄光を【主】に帰せよ。／聖なる装いをして【主】にひれ伏せ。

- (3) 「アーメン」は、ヘブル語である。
 - ①申 7 : 9 の「主は信頼すべき神であり」は、「アーメンなる神」である。
 - ②イザ 49 : 7 の「真実である【主】」は、「アーメンなる【主】」である。
 - ③新約聖書では、「その通りです」「そのようになりますように」である。
 - ④主イエスは、重要な内容を話す際に、「アーメン、アーメン」と言われた。
 - ⑤黙 3 : 14 の「アーメンである方」は、イエス・キリストである。
- (4) ユダヤ教の会堂では、朗詠の中に「アーメン」が何度も出て来る。
 - ①会衆は、「アーメン」で応じる。

- ②パウロは、ここで述べた単純な福音に「アーメン」という応答を要求した。
- ③ガラテヤのクリスチャンたちは、「アーメン」と応じた。
- ④それでもなお律法主義に生きるなら、それは矛盾である。

結論

- 1. 使徒職の弁明
- 2. パウロが伝えた福音

1. 使徒職の弁明

(1) 「使徒」とは、本来はイエス・キリストの12弟子である。

①イスカリオテのユダに代わってマツテヤが選ばれた（使1：21～22）。

Act 1:21 ですから、主イエスが私たちと一緒に生活しておられた間、

Act 1:22 すなわち、ヨハネのバプテスマから始まって、私たちを離れて天に上げられた日までの間、いつも私たちと行動をともにした人たちの中から、だれか一人が、私たちとともにイエスの復活の証人とならなければなりません。」

②ここでは、使徒の条件が示されている。

*公生涯の間、イエスと行動をともにした。

*復活のイエスに出会った。

(2) 「使徒」の一般的な意味は、「遣わされた者」「使者」である。

①この意味に立てば、宣教師と伝道者はすべて、使徒である。

②2コリ 8：23

2Co 8:23 テトスについて言えば、彼は私の仲間であり、あなたがたのために働く同労者です。私たちの兄弟たちについて言えば、彼らは諸教会の使者であり、キリストの栄光です。

*テトスは、パウロの同労者である。

*兄弟たち（パウロが遣わす他の2人の兄弟）は、使者である。

・ギリシア語の「アポストロス」である。

・日本語で「使者」、英語で「messengers」と訳されている。

③ピリ 2：25

Php 2:25 私は、私の兄弟、同労者、戦友であり、あなたがたの使者で、私の必要に仕えてくれたエパフロディトを、あなたがたのところに送り返す必要があると考えました。

*エパフロディトは、「使者」（アポストロス）である。

④ヘブ 3：1

Heb 3:1 ですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちが告白する、使徒であり大祭司であるイエスのことを考えなさい。

*イエスは、父なる神から派遣されたという意味で使徒（アポストロス）。

(3) パウロは、12使徒とは別の範疇の使徒である。

①バルナバもまた、この範疇に入る使徒である（使14:14）。

②復活のイエスに出会ったことが、第2グループの使徒の条件である。

③使9:3~4

Act 9:3 ところが、サウロが道を進んでダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。

Act 9:4 彼は地に倒れて、自分に語りかける声を聞いた。「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。」

④使9:17

Act 9:17 そこでアナニアは出かけて行って、その家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウロ。あなたが来る途中であなたに現れた主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。」

⑤1コリ15:8~9

1Co 15:8 そして最後に、月足らずで生まれた者のような私にも現れてくださいました。

1Co 15:9 私は使徒の中では最も小さい者であり、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれるに値しない者です。

2. パウロが伝えた福音

(1) ガラテヤの諸教会の誤りを正すという意図が、すでに見えている。

①クリスチャンは、今の悪の時代から救い出された。

②復活の希望が与えられている。

③その基になっているのは、イエス・キリストの贖いの業である。

④イエス・キリストの御業は、父なる神の御心に従ったことである。

⑤決して、人間の業ではない。

⑥それゆえ、クリスチャンは神の御名を称えるのである。